THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

遞信省認可

明治二十年六月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第六十四號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

目錄

〔女學叢誌〕女學生に告ぐ●〔中外新報〕數十件●〔學藝一斑〕意想の連環●〔列女傳〕露の下をれ〔前號の續き〕●〔論說〕女子の敎育を改良する一法〔前號の續き〕〔淸水直義君演述〕歐洲の商業敎育マリシャル君演說●〔新作物語〕閨の徹夜燈第二篇〔南翠外史述〕●〔家政要報〕麥粉にて麵包を製する法○蔬菜の養汁○豌豆の羹汁●〔御伽草〕大僧正俳優と問答す○數學問題○考へもの〻題○數學問題答式幷に考へもの〻答●〔寄書〕獨語〔前號の續き〕●〔英語獨修〕ニューナショナルリーダー直譯

女學叢誌

○女學生に告ぐ

女學の說女權の論は敢て今日に至て始めて起りたるにあらず今は昔し過ぎぬる明治五六年の頃に在て業既に學者の唱道せし所なり然るに爾來寂として其聲を絕ち嘗て之を主張する者なかりしは何ぞや實に怪訝の至りと云ふべし偖て今飜て明治五六年ころの社會の狀態を追想するに當時に在ては文物制度の大より衣食住の瑣事に至るまで一として今日の觀を備ふる者あらざりしなり左れば啻に女學の振興女權の擴張につき世人の主意を惹く能はざりしのみならず社會全躰の自由と云ひ權利と云ひ其之を唱道せしは唯學者社會に止まりて未だ一般人民の如きは毫も之に繋心する者とてはあらざりし又其敎育の如きも泯々として未だ我邦人の心意を照らす能はざるの當時に在て適ま學者社會に於て男女同權の論女子敎育の說を唱道するも國民爭でか之れに繋心する者あらんや否な啻に國民の之に繋心せざるのみならず學者仲間に於てすら之を世に合はざるの新說奇論と爲し仰々しく論難攻擊せしに非らずや左れば既に十數年前に在て一たび其端緖を開くと雖ども爾來寂として聲なく寥として燈火の滅したるが如く之を唱ふる者なかりしは決して怪しむに足らざるなり

素より我國の婦人にして古來男子と同步同行し來りたるとなれば其泰西の文物東漸して我か男子を進化すると同時に亦た其化育巾幗社會に及び男子の進步と其運命を同ふしたるに相違なかるべしと雖ども唯だ如何せん我か國の婦人は云ふも忌はしく聞も憐れなる無學無能無識無感覺なる不具不告の悲境に沈淪せしとなれば假令男女同權の行はれ女子敎育の盛んなる國々の文物風俗東漸して男子獨り之れに浴するも其化育の巾幗社會に及ばず尙ほ其舊衣を脫して新衣を着け幽谷を出で〻喬木に移る能はざりしも亦た是非なけれ

然りと雖ども社會開明の勢力は恰も噴火力の如く如何なる重力を以て之を壅塞するも到底其噴出を抑止する能はざるなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

我國の婦人は古來柔順無學無能無氣力など云へるものにて其身体精神を封鎖禁錮され人類固有の活動力を消失し唯だ走屍行肉たるに過ぎざりしのみ然るに今日に及んで東漸の新主義次第に其勢力を增し開明の氣運漸く走屍行肉を照らし遂に其封鎖を解き禁錮を破ぶり新婦人と生せんとするに至れり是れ亦た自然の勢なる乎

試みに此數年間我國に於て最も著しく進歩したる者を數へんよハ余輩ハ女學の進歩しゝるの一事を以て亦其中に加へざるべからず見るべし今日街頭よ挾書女子の往來する者日に益く多きを加ふるとを數年以前に在てハ我東京の如き都府に在てすら女子を教化涵養するの庠序學校とても寔よ寥々たりしに非ずや而して之に學ぶの女子の如きも啻に其數の僅少なるのみならず其女學生ハ尋常婦人即ち俗世界に立て妻たり母たる者にあらずして概ね或る一部內の人に過ぎざりしなり當時余輩ハ此の如き女學生の多く輩出せんよりハ寧ろ尋常婦人即ち俗世界に立て妻たり母たる女學生の益々多からんとをころ切望しつゝありしに纔か三四の星霜を經たる今日に於てハ大に其狀況を異にし日に月に益々隆盛を見るに至れり若し駸々乎ゝる今日の勢にして向後十年も經過しなば我國の巾幗社會に實に驚くべき一大變動を見んハ智者の言を待ずして知るべきのみ

（未完）

◎中外新報

◎哇布國の皇后　哇布國と云へば誰も知れる通り太平洋中の一小嶋にしてその人口なども我東京の神田區ほどよりも少なきが國王カラカハ殿下は先年我國に來遊せられたるとき緋天鵞幕を新富座へ贈りたることなどもありて中々世間慣れたる君にておはしけるが皇后には歐米漫遊と思ひ立せられ先頃その國を發足して亞米利加におもむかれたれバ大統領クリー、ブランド氏ハ盛なる饗宴を張りて欵待す積りなるよし猶は諸國漫遊の途次遠からず英國へも立寄せらるゝ筈なりと寔に盛なる事共なり

◎東京高等女學校　同校よてハ最下級生徒二十五名試驗の上入學を差許さるゝ筈にてその入學試驗の科目は國學（假名交り文の讀方）（簡易の記事及び消息文の作方）英語（ニューナショナル、リーダー第一卷）數學（筆算加減乘除及び分數、小數の大意）裁縫（襦袢、單物類の裁方幷に縫方等）にて志願の者ハ本月三十日迄に申し出べき事なりと云ふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○英和學校　青山英和學校にては去る廿一日より三十日まで試驗を行ひ即日閉校し來月一日を以て新築の高樓に於て開校式を行はるゝよし

○啞生徒の編物裁縫　築地なる訓育啞院の女教師ハルレー氏ハ啞女生徒に毛糸の編物を教授せしに昨今何れも上達せしを以て更に洋服裁縫科を設くる筈なりと

○孝女一家を感化す　芝金杉濱町に一小寺あり今を去ること三十年前住職某ハお金と云ふ妻を迎へ夫婦の中も睦しく暮しける中長女お幸次女おばん長男達麿と云ふ三人の子供を擧げしが檀家と云ふも僅か五十餘軒なれば金の餘らふ樣もなく漸くにして其日を送る瘦世帯何か內職をとハ思へども一寺の住職の事なれば餘り馬鹿氣し事もならずと云つて生計に差支へるより浮屠氏にあるまじき惡心を起し火事場盜人の群に入り今日ハ本郷明日ハ下谷と毎夜火事のあるを待てハ其場へ赴き衣類道具の嫌ひなく手當り次第に盜取り持歸りてハ賣捌き仕合宜しと思ふうち天網爭で漏さんや忽ち其筋にて探知され數名の捕吏が該寺に到り捕縛せんと取圍たるを某ハ早くも覺り雪隱の掃除口より拔出して隣寺なる酒井某方へ到りしに此酒井某と云ふハ善智識と知れし人ゆゑ懇々其非を諭せし上遂に某を自首せしめぬ話し變つて妻のお金ハ三人の子供を相手となし檀家の納物にて日を送るも長女お幸を初めとし頑是なき者のみゆゑ人の美麗な衣裳を見てハ頻に之を羨みて母のお金に迫るにぞ一時ハ小言で押へるも現在自分も見ることなれバ親心とて憐然に思ひ無理なことをして衣類を着せ喜ぶ顏を見てハ心の中にて泣き居りしが次女のおばんハ身裝などにハ一向搆ハず朝夕阿彌陀に打向ひ一時も早く父上が出獄する樣なし給へと念じ居ること殊勝なれ去れバ最寄の人々も感じ入つゝ居たる中父ハ明治の三年に遂に獄中の鬼となりしかばおばんの悲みハ大方ならず涙の乾く時さへなきに母のお金ハ左のみ心に掛ざるが金さへあれば遣ひ捨て貧苦に貧苦を重ぬれバおばんハ之を見るに忍びず雨雪の朝も素足にて襤褸の撰方に賴れて赴き夕方も日が暮れて歸り來り若干宛の稼ぎをなし母を養ひ居たりしに母のお金ハ宜き事に思ひ寄席や芝居へ赴くのみか現在稼ぎ人のおばんをバ打擲せること抔もあれどおばんハ毫も抵抗ハず益す孝養を盡すにぞ人々も彌よ感じ內々若干を與ふれバおばんハ直に持歸り母の暮しの助とするなど實に稀なる孝女なれバ區務所の吏員が之を聞き其筋へ上申する運びに至りしが當時故ありて延々となり居る內或日の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ことなりしとか母お金がおばんを打擲したるより手を病み初めしとの事に孝心深きおばんは驚き直に醫師を迎へ來りて治療を乞ひしに母は醫師への禮金に差支ふるとて心配し居る其折からおばんは縮絆一枚となり若干の金を出したるに醫師も其孝心に感じ入り件の金を請けし後改めて金三圓をばおばんに與へ其孝養を賞賛せしを母のお金は之と見て始めて夢の覺たる如く是迄の非を悔悟なし斯る孝子を粗末にしたる愚さよと夫より心を改めて共に身を粉に碎きて働きしかば忽ち身代を取直し豐と云ふに非ざれど先づ相應になりしとぞ又姉弟もおばんの行ひに耻入りて夫々身をば固めしとは實に稀なる孝女と云ふべし

○唱歌會移轉　東京府師範學校唱歌教員四竈吶次氏は先年一の唱歌會を設け東京府師範學校附属小學校内に於て唱歌を教授し居りし處先般東京府學務課にて唱歌講習所を設けられたれば教場の差支るに付右唱歌會は四五日前より麴町區有樂町三丁目へ移轉したるが入會する者續々之れあるよし

○長榮女塾　小石川區台町の長榮女塾は去る明治十七年中に設立せしが本年五月規則を改正し女子にして小學校教員たらんと望む者を養成する目的にて（教員志願者のみにも限らず）尋常師範科の全部を教授し之を本科豫科に分ちての學期は各四ヶ年とし生徒の起居進退は凡て簡便なる西洋式による由にて目下猶生徒二十名を募集中なり

○舞踏會　戸田全權公使には去る廿一日皇族大臣各國公使其他内外の紳士貴婦人等數十名を山下町の鹿鳴館に招きて留別の舞踏會を催ほされたり又海軍の各將校方は毎月水交社に於て舞踏會を開かるゝが追々暑候にもなりたれば本月第四土曜日を以て納會され十月まで休まるゝ趣きなれば納會には樂隊を聘して常よりも盛會にせらるゝ筈にて夫れ〳〵相談中なりと云ふ

○婦人の水先　合衆國チヤンプレイン湖と往復する滊船ウオーターリリ號の船長ダニエル氏の夫人は此程免状を得て同船の水先となりしが元來同夫人は其所爲男子も愧づべき程のもの多く而も本然の淑德を失はずして天晴れ一箇の女丈夫なるが既に十年間同湖畔に夏季を消して此道には頗る熟達し居たる事なれば試驗の成跡甚だ見事なりし由にて去月六日其初航を爲す筈なりと同地より近着の報に見へたり

○いろはぐみ　菟道春千代、元田直、淺井琴晴等の諸氏は我國のいろはを廣く用ひんとて自ら發起人となりいろはぐみと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

云ふを設立せしが其事務所を大坂東區北新町に置き最早規則も整ふたれば今度會員を募集せらるゝよし猶ほ委き事ハ次回の廣告に記載すべし

○大坂通信　去る十二日博物館内に於て山田淳女史新作の唱歌合奏會を催され聽衆も多く中々の盛會なりし○將校慈善會の各員ハ昨今頻りに看護方の學問を勉强せらるゝ由○市中の三十年以下の女子ハ當春頃より大抵髪ハ束髪履物ハ、靴と變化したり

○今治婦人會　愛媛縣下今治なる有志の婦人數十名にハ今度今治婦人會なるものを創設せんとて熊野いよ、柳瀬玄か、同ひさの、同いと、八木きの、の五氏が同會組織取調委員と爲り本月二日を以てその創立會を開かれしに會合するもの百有餘名なりしが右五氏ハ盛會を祝し組織法の報告會の趣意を述べ又會合者中祝辭等を述べたる婦人もありて近來の盛會なりし

○裁縫請負の課を設く　京橋區山城町の私立婦人洋服裁縫女學校にてハ近來追々に生徒の增加し隨て技藝も大に進歩するに至りたるに就てハ猶一層同事業の擴張を圖る爲め今度さらに英佛人の教師二三名を雇入れ裁縫請負の一課を設けたるよし

○女優の賀の祝、　墺國維也納にて有名の女役者ウオンルは五十六歳の賀の祝をなさんが爲め去月十五日の夜演劇を興行し流石有名の女優とて當夜の景況は甚だ盛んにして看客ハ皇帝及び皇太子を始め場内立錐の地を餘さず皇帝よりは金剛石の腕飾を贈與せられ其他同國内及獨逸諸方より寄贈を受けたる事夥しく同人は演劇を終りたる後皇帝及び其他の看客に向て謝辭を述べたりと

◎學藝一斑

○意想の連環（アッソシエーション、オフ、アイデアン）（續稿）

然らば則ち夫の心理學に所謂接近類似律とハ果して如何なる者を云ふ乎又其二律ハ果して如何なる作用を現ハして吾人をして深夜蹶起瞋目撫劍擊節奮躍せしむる乎又吾人をして蓬髮垢面茸々たる鬚髯ハ頰顔の大半を沒し片々たる弊衣垢服ハ纔かに瘠身の半躰を纏ひ氣息奄々として囹圄幽囚の中鐵窓寒月の下に呻吟號叫せしむる乎是れ學人の茲に論究せんと欲する所なり

夫の心理學に所謂類似律とハ人皆な曾て起りたる所の態度に就き現在の作用感覺思想或ハ情緒に類似する者を回想するの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

傾向あるを云ふ而して類似律ハ接近律に同じからず接近律ハ同時に心意中に表現する事物を連絡す例へバ光を見て其熱を思ひ物の落るを見て其觸撃を思ふが如き即ち是れなり然れども類似律ハ之に加ふるに現在の事物に由りて既に過ぎ去りたる事物を追想するを以てする者なり又類似律ハ一方より之を見れバ接近律に包含せらるゝ者にて若し反覆に由て接近聯合を固定するときハ反覆する毎に總て過去のことを再現せしむるものなり以上ハ接近類似の二律を略説せる所のものなり然らハ則ち此接近類似の二律の如何なる作用活動を現ハし吾人をして忽ちにして喜ばしめ忽ちにして怒らし忽ちにして哀しましめ倏ちにして樂しましむるが如き千狀万態の境遇に誘引する乎是れ學人の玆に論究せんと欲する所なり

街頭を漫歩するの際 適 店頭に翩々たる袈裟のつるしあるを見る時ハ則ち忽ち心意馳せて圓頂緇衣の沙彌大堂高座に坐し、手に珠數を爪ぐり將に口を開て數千の惡男惡女に向て濟度の辯を振ハんとするの形容に及ぶ是れ沙彌と袈裟とハ甚だ接近せるものにして沙彌と思へば心意延て袈裟に及ぶ即ち是れ接近律に由て心意の連及するものなり世人の沙彌惡けれバ袈裟まで惡しとの言亦た以て其意を解すべきあり　（未完）

◎列女傳

○露の下をれ　（下の二）　竹廼舍壽々女　記

前回(下)とあるハ(下の一)とすべく同本文末行明治五年とあるハ初年の誤植なり

爰に明治初年の末より福岡藩士の中にして容易ならざる事件をば企てたる者ありぬ丌ハ當時大參事等要路に當る人々が大半加擔したるを以て翌年に至るまで其事更に知られざりしも僞造なしたる紙幣とば城下の町人何某に托して長崎へ持出し米穀等を買入れしより贋札なると發見され何某ハ捕縛になりその出所とば訊問中東京なる彈正臺にていつしか福岡藩士の巧みを聞出されし物と見え何某にハ見込われば早々當地へ廻さるべしと同人及び所持なせし贋造紙幣六万兩とともに同臺にて受取られしがさすが大望に一味なしたるものほどありて少しも事由を白狀せぬうち敢なく牢死したりしかバ爰に詮議の手蔓をバ失ひし折大村の藩士にて名高き甲某とて目今時めきたまひぬるが此際進んで探偵の任に當らん事を望ミ乃ち同臺の許しを得て只一人職工に姿とやつして出發し目ざすハ筑前福岡地方と頓て同地へ着船なし種々の手段で城内の樣子を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

逐々探りしに如何にも不審の事のみにて第一城内二の丸にハ數十名の職工を雇ひ入れて何事か製造に着手それど落成せぬ其うちハ決して歸宅を許されず且つ番兵を嚴にして城の出入と改むれバ藩吏たりとも參事官の許可なきものハ一人も出入をさせぬ体たらくに甲某いよ／＼心を摧き辛ふじて此事に關係ある職工の親分なりといふ者に頼り寄りて城に入り彼の製造ハ軍用の紙幣と贋造するものにて既に六百万兩も出來したる景況を篤と見屆け逃れ出夜を日に繼で肥前なる佐賀城に到着し長官にろの譯を密告なして万一の備へを爲さしめだる後に便船にて東京へ戻り圖面に添へて一伍一什を申告せしかば其筋にてハ甲某の勞を犒ひ夫々協議ありし末荒立てなバ大事をならんと大屬以下十數名に指揮をなして甲某と改めて嚮導となし急ぎ佐賀へ出發せしめ同地に於て一大隊の兵士を借りて突然に福岡城へ押寄せしハ實に明治二年の夏六月八日の事なりし然るに事と企てし同藩士等ハ一向に戒心せざる頃なれば防禦の暇もあらずして忽ち落城したりしも元寄手ハ城内に散在せる紙幣贋造の機械と収め且つ重立ちし諜士とバ十有餘人捕縛して即夜佐賀へ引揚げしかバ同盟なし〻人々も多くハこの場に望むと得ず時經て夫と聞知りつ今ハ是非なしおめ／＼と捕縛を待つより潔よく自殺を爲さんと決心し或ひハ城に或ハ又自宅に於て腹を切り最期を遂げしも多かりしが其うち諜主といはれたる藩吏數名ハ連累の多く出でんと悲しみて自ら蹈つて東京へ出で彈正臺へ自首せしより同臺にても其情を酌量ありて一同バ一先某藩へ預けられ明治四年の七月二日傳馬町にて屠腹をば命ぜられし者五人あり其他連累六十餘名ハ悉皆放免せられたるハ維新後第一の大獄と評判高き事なるが例のお國が所天たる何某も同藩に縁故の人のあるよりして加盟と勸められしと見え用事に依託け福岡へ玄ば／＼旅行なしたるが明治二年の二月上旬同地の人より書狀にて何か報知來りしを見ると其ま〻何某ハ件の書面と虫干にと半ば取出し飾りたる具足櫃の中へ納め俄に用事の出來たれば是より直ちに福岡へ出向て來ると支度さへそこ／＼にして出立をなしたる跡に此どろの擧動を訝しと考付しお國ハ若しや彼の地にて馴染の女の出來もして斯くハ我家に安堵れぬか何ハ扨置き不審なハ今朝しも屆きし那手紙妾に隱して具足櫃へ大切さうに仕舞されしこそかた／＼以て心得ぬ一寸取出し改めんと偵が女の廻り氣に轟く胸を押鎮め具足櫃より取出せし手紙ハ婦人の名ならで福岡藩吏の某方より送りし至急の密書にてろ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の文面ハ判然せねど兼てお噺し致した事件のハヤ手筈も整ひたれバいよ〳〵御同意なるに於てハ此書状の到着次第即時出張あるべしと記してあるに怜悧のお國扨ハいつぞやよろ事に人の生死ハ老少の順序に素より依るものならねば男女を論せず變に臨み驚かず狼狽ずよく仕末をばつけるのが肝要なりとの物語りと思へバどうやら氣遣ハしいハ今朝早々の御出發コリヤ心配が出來てきたと傍へに何の思慮もなく遊び戯ふる少女を見るに付ても良人の身の上案じやられて堪へ難けれバ爰にて物を思はんより寧ろ彼の地へ赴いて密かに用意をなしたる折柄その夜も更けて十二時過ぎ取落せし品ありとて何某が途中より戻り來るを見るより

三百四十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

もお國ハ乾度胸と据え件の手紙を証據とし福岡表へ出發の理由を切に問詰られ偵が夫婦の情として包み兼てか云々と福岡藩吏の勸めに同意し大事と擧る一伍一什と物語りつゝ貌を改め斯く樣子を明せしからハ連添ふ其方も武士の娘よく心得て跡々の仕末を万事頼むぞよ思はず夜も更けたれバ白むを待て出發あさん其間に暫し一睡んと涙隱して身を起し次の一室にたはひなく睡れる少女の夜具の中是が是世の別れぞと虫が知らすかワッとバかり泣出しゝをォ・よし〳〵今夜ハ父が寝かしてやる泣くな〳〵と脊叩かれアイと返事もいつしかに父娘グッスリ寢入りしが鼾の聲のみ聞えけり跡にお國ハ默然と良人が心得違へをバ嘆き悲しみゐたりしが兼て知りたる良人の氣性一旦思ひ立たれしのちハ諫めやうともなか〳〵止まりたまふ筈ハなし然りとて此まゝ捨置かば所詮屆かぬ思ひ立ち空しく命を落したまふ夫のみならず罪人の家とて數代續きたる此家の破滅ハ目前なれば良人の爲に一命を捨るハ元より覺悟のまへましてハ家の興廢にかゝはる大事の今宵の切迫時刻後れて出發をなされた跡でハ其甲斐なしさうじや〳〵と取出す硯も袖の雨烟や墨すり流す音さへも忍とすれどせきあぐる涙のみ込み細々と思ふ限を漸々に書了りぬ

◎論説

○女子の教育を改良する一法（前號の續き）

清水直義君演述

又それだけの事を知て居てもすることが出來ぬと云ふことが籠て居ります中等以下の者は最も困難なのハ金錢と除く方法がなければ如何程方法を拵へても中等以下の女子と改良することハ出來ませぬ中等以下の女子を教育するは如何なる方法を用ひて宜しきかと云ふに私ハ一つ考へました是れも決して新らしき事でハありませぬ古き事でありますが私が中等以下の女子を教育するに必要なるハ貧女學校と子守の學校を設けるが必要と見認ました下に其事を申し述べる積りであります中等以下の女子ハ教育と受けられざる者もあります年を取た者も小さき者もありますが又それ程役に立たぬ小さき娘ハ何故就學させぬかと云ふに大抵ハ人の家に子守に遣るとか又子守に遣らざるも自分の家に澤山子供がありて職業の妨けとするから子守をさせると云ふことが澤山あります是れ等の事情ある者を就學させ樣と云ふにハ何したら宜しからうと云ふゝ子守をしながら就學させると云ふ所がなければなりませぬゆれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故に私は子守學校を立てるが必要と思ひますその場所はどんな町どんな田舍に行きましても社とか寺とか云ふものは必ずあるに違ひありませぬ故に其社とか寺とか廣き庭のある樣な公共の所有物とその場所とすればそれで宜しからうと思ひます偖場所が出來ましても充分立派でなくても人を教育するには道具がなければありませぬ東京に在る學校の樣に腰を掛けて教授せさるも多少道具が入ります夫れは私の窮策でありますが仕方がなきゆゑ有志者の寄附金を募るであります有志者の寄附金を募るか然らざれば無利足で金を借り入れます有志者は箇樣な場所に向て金を寄附し又は金を貸すと致しても宜しき事であらうと思ひます若しもその事が有志者の耳に聞えれば必ずしも惡き事ではない致さなければならぬ事と思ひます或は餘り世間の役に立たぬ事でも隨分有志者が寄附金を致しますから日本の教育を改良するとも謂ふべき女子の教育の改良なれば有志者は應分の寄附金をしても差支なきことゝ思ひます故に私は有志者の德義心に訴へ樣と思ひますそれから教授時間でありますが時間の事は何れでも宜しきが私が一寸腹の中で分量した所は午前七時から十一時までを一と切りとしそれから午後は十二時から四時までを一と切りに致します

其方法は先づ村なら村、町なら町、子守り總躰を子守學校へ入れる事として之を入れるには強迫しても宜しと思ひます況んや無月謝で教へることでありますから子守總躰を入れまして差支ありませぬ偖之を二た切りに分けて甲乙と致し甲は前に述べた午前の時間に教育致し乙はこれと反對で午後に教育致します例へば爰に二三十人あるものとしまして十五人宛二た分れにして教育致します然すれば半分教育を受けても半分は手が透きて居りますからその手の透きて居る子守は自分の子供の守りをすることは勿論今教授を受けて居る子守の子供を引受けて自分が教を受ける代に二た役を兼ぬるのであります斯く二た分れにわかれまして教授すること即ち一の方法であります子守りの教育に就きて時間は如何なる風にするかと云ふに則ち前に述べたる勘定では七時から十一時まで十二時から四時までゝ四時間宛てありますが此四時間を二に分けて二時間は學科を教へ其學科は私の見込みでは修身、讀書、算術、位で宜しと思ひます其餘の二時間は職業の時間に致しまして職業は土地の情況で違ひがありませう則ち裁縫もありませう或は養蠶もありませう又は糸を績ぐ事もありませう機織もありませう其他種々の職業がありませう東京なればマッチの箱を

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

張るも宜しハンケチの縁を縫のも宜しくありませう（未完）

○歐洲の商業教育　　マリシャル君演説

今日御來會の御婦人方幷に貴顯紳士及び諸君に向て謹で申上ます今日は歐羅巴の商業教育と云ふ事を申上ますから其積りで御聽取を願ひます

極古代に遡て見まするにエジプト、アラビヤ或はバビロニー、カルターシユ、印度の如きは商業上の交際一般に行はれて居た樣であります其から中世に降りまして万事が改良して參る時代を考へて見まするに其時分の商業であれ工業であれ商業工業の行はれまする所には都て人民の幸福が殖へる又人民の勉強の力が非常に殖へると云ふ有樣であります此工業商業が段々と盛になりましたる時代になりては商業工業上にありたる種々の障碍物が段々なくなりまして人民の幸福が殖へました其何よりの證據は歐羅巴中世にシヤル・マニユと云ふ皇帝が申されましたことが御坐ります之を以て何よりの御參考に供しませう此シヤル、マニユと云ふ皇帝帝室にあります所の寶玉を指して（此帝室の寶玉と云ふ者は非常の價直のあるものにして人民として到底所有す可きものでないと云ふ位のものなり）申されまするに朕が國内のストラスフールと云ふ所（即ち商業者のある所）の織物製造人には如斯大なる價のある寶玉でも買得ることが出來る我臣下には如斯者があると自慢された事が御座ります又佛國にジヤン、ド、ナヴァールと云ふ皇后樣が御座りました其時分の皇帝はフヒリップ、ル、ベールと云ふ方でありましたが其皇后樣が佛國のブルジユと云ふ商業の盛なる所へ行啓になり人民が非常に華美を飾て出ましたのを見られて天下に皇后たる者は我一人と思ひしに豈計んや六百人以上の皇后が居ると云事を申された事があります則ち商業上の爲に人民が幸福を得其華美は竟に皇后樣にも劣らなかつたと云ふ感を起した證據で御座ります只今述べた二人の申されましたるとは簡單なる言葉で或は自慢の言葉でありますが中世時代の商業の盛なる所に於て此言葉は其當を得て居まして則ち商業は人民の幸福を來すものであると云ふとは判然たるなれば今日商工業の彌盛になりて世界中商工業のあらざる所なく商工業は人の幸福を來すものであると云ふとは明で御座りませう先斯の如き者で御座りますから私も確信して居ます所では商業の人生に於けるとは猶血液の人身に必要なるが如くにして血がなければ人躰は生きて居るとは出來ず商業がなければ人民が生きて居るとが出來ぬものであらうと思ひます

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

又醫者が病人を診察し又病人でなき者と診察し其脈の數を算へるに其數幾個である故此ハ壯健の人であるとか又ハ病人であると云ふとが分るでありませう之と同しで商業上の取引の額を數字で見まして其數が小なれば不開化な國であるとか又其數が大なれば開化したる國であると云ふ事を斷言することが出來ます今日世界の地圖に就て孰の塲所が商業が盛であると云ふ事を見ますると則其商業の盛なる所ハ人民も幸福で國も富て居ります則 其所ハ開化したる所であると謂ふとと得ます扨今日の商業と往昔の商業と比較して如何なる區別があるかと云ふに其區別の最大なる者ハ國を以て限たると國と以て限らざるとの別がある今日の商業ハ万國の商業でありまして之に付てハ國境ハありませぬ然に往時の商業ハ國境で限れて一地方の商業であると云所が最 著しき相違の點でありませう今日の商業ハ交通運輸の便が盛になりました爲に遠く國境と離て全世界を一の競爭地として働く樣になりました故に今日の商業ハ人民の幸福を大にし人民の目的を達し又一ハ最大切なる者で昔ハ甲國の人民と乙國の人民と孤立して居ましたが商業が媒介と爲て甲乙二國の人民が姻戚の樣に親くなりました故に各國政府ハ擧て商業を盛に致ます

去月十六日大日本教育會雜誌(未完)

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第二篇　南翠外史　述

第四　二人の少年二人の少女　(貳)

明る日ハ事なく終りさて其の夜ともなりければお覺ハ此度話し振の異りけるより定めて奥深き物語りなるべしと思はれければ「阿母さん昨夜ハお敏さんがお靜さんに遊び事をお望みなさいといふ處でお了ひでしたねェ「左樣サ是からふ話す二人の心持と品行とに能く氣を着けてお聞なさいヨ

お靜　二人でハ何をすると言ッても出來ないぢやァ有りませんか貴女が成さるなら御手玉か十六武藏を致しませう

お敏　妾ァ嫌や、お靜さん夫なら妾のする事をしませんかお知んなさらなくッても直と出來ますからふ

お靜　あァに、何ですヨ何んな事をするノ

お敏　クラブ、ボールといふものサ、アノチ四角な處の八方へ竹を輪にして中央へもチ夫と拵へて貴女の玉と妾の玉とを轉がして往くのですヨ早く澤山輪をくゞつて中央へ納まるのが勝なノ、ア、解ハないのヨ

お靜　妾に出來るか知らん敎えてお呉なさいヨ仕ますからふチ

三百五十三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

不器用だからお笑ひなすつてハ嫌やですヨ
お敏　誰が笑ひませう妾だッて大層上手……上手が可笑いオホヽヽ下手でございますから何をするンだか解りやア仕ませんヨ、マア手始めハ何せ汰目でせうと思ひまそれ
お靜　夫ハ宜うございますが玉がなくッてハ出來ないでせう
お敏　今日ハ子お靜さんと二人で御留主番をするのだといふ事を昨日御師匠さんに伺ひましたから子其の器械を持て來たのサ、サアお靜さん此の槌で斯う打つノ、ソラ子此の玉よ撞着りましたらう、ホーラ此れで此の輪を潜らせるノ、子分りましたらう、貴女今度お仕なさいナ
お靜　何だか六かしさうですチエ、斯うですか、オヤ〳〵向ふまで轉がりましたヨ、訝しいチエ不器用で……
お敏　ナニ宜ッでをヨ、好かつた〳〵オヽ嬉しい事
斯く餘念なく戯むるゝうちにも馴れし事とてお敏ハ速かに一順して第二回目にかゝりけるがお靜ハなか〳〵に自由利かず常の遊びとても追羽子手毬なんどを最上のあらき遊びとして鬼ごッこ隱れんぼ目隱しをさへ厭ふ身なれば玉ゆきを考へて是れと轉ばせるハキシヤゴ彈きに似つべきも槌を以て廣き庭を彼方此方と馳廻りまた玉を狙ふに力を籠むるより腕勞かれ足痛み息さへはづみ來たれば槌を杖つきて見物せり
お敏　お靜さんモウお止なすつたノ、運動に成りますヨ最些遊ばセナ、お嫌やですか、エ、お嫌や、ぢやア廢めませう
お靜　妾しハ息切れがして眩氣がして來さうですから御免なさいまし、お敏さんハ羨ましいのチエ元氣が宜ッてサ、今日ハ御師匠さんハ何方へ被爲入ッたのでせうチエ
お敏　今日ハ子母屋ハ子清一郎さんとか被仰る方が廣嶋とかの呉港といふ處へ御發なさるので御方へハ御留主居を置てアノお繁さんと禮二郎さんとを伴れて此方へお引越になるのだッて子夫れで彼なよ御座敷とお掃除をなそつたノ
お靜　オヤ爾う、夫ぢやア御長逗留だと見えますチエお繁さんがお單身に成つてお可愛さうだハ、だから妾しやア海軍の方ハ嫌サお船に乘て被爲入る時ハ風の吹く度毎に氣が揉るし御出張先へも一所に往く事が出來ないから
お敏　妾ハ海軍の方が好サ、夫やア貴女十人十種だから妾が好だと思つても人樣ハお嫌ひかも知りませんが子此間斯ういふ話しを聞きましたヨ「女といふ者ハ此世の中よ一番貴いもので世の中といふものハ女が男を使つて成立て往くものだ夫だから女ハ何でも立派な子供を拵へて其の子供が世

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

間を支配して往く様に育るのだから夫丈に學問をしなければ成らない、學問ばかりでなく心懸が肝腎で英吉利の人が若い内に我も〳〵と海軍の士官に爲るのは英國の女が海軍士官を敬愛するからふ私も海軍士官になつて貴婦人の敬愛を受けやうといふ精神ださうですヨ、ナニも海軍士官の服が立派でエボジットが美しいから女が好むといふ譯ではなくッて全く此の人達は御國の爲に命を抛棄して職務とする人だから尊ばなくッては濟ないといふ心で海軍士官を愛します夫だから若い方は皆な海軍へ入つて英吉利の海軍といふものが盛んに成ります、また獨逸の婦人は眉間に疵のある人を好くから

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

依然若い人ハ勇しい心と起して氣が強くなりますが此の向ふ疵と好くといふのも其人の勇氣を好くので決して決鬪やなんぞの殺伐な事を好むのでハない、是等が鳥渡した嗜好その樣で居て大層に心懸の龜鑑になります、夫ですから日本の御婦人達も色の生ッ白い病人染た優男や名譽とかいふもの〻ない不見識な劣等人種の俳優などを大騒ぎ遣ることを癈して人の氣を強く引立る樣に海軍や陸軍の人を大切に思つて好く樣に心がけを持直さなくッてハ成りません此の心懸がなく依然不見識ものを珍重する樣でハ世間を支配する程の子供の育方ハ中々出來ッこハない」といふ事を先生に伺つた事がありましたから妾ハ海軍の方といふ者ハ大變に貴いものだと思つてるノ、笑ハれても構へません眞個にャ

敏子が心に信じたる事を引出して演述する折から門外に車の音止まりて「ア、御苦勞だッた序に夫と運んで呉んな」といふ聲の洩れけれバ熱田老夫婦が嫁と二男とを伴ひて歸り來れるものならんと思ひけれバお靜ハ口まで出たる辯駁を呑込みてお敏と〻もに急がはしく出迎へぬ

「サア後ハまた明日の晩のお樂しみにして早く寐ませうぞォヤ〳〵モウ十一時過だヨ夜が短ッかく成つた事

◎家政要報

○麥粉にて麵包を製する法　最上の麥粉四ポンドに麥酒の釀母二勺柄杓と半ピントの湯を注ぎ込み暖かなる場所に二時間ほど動かさぬ樣に据ゑ置き暫らくして又半ポンドの麥粉と一と茶匕の食鹽とを混入して泡沫のなき牛乳或ひ湯を注ぎ掛けて半燒と爲し之れに蓋をして一時間ほど据ゑ置きてから之を暖かなる皿に程よく擴げ二十秒位立ちてのち釜にて蒸すべし

○蔬菜の羹汁　馬鈴薯二切と葱、蕪菜、胡蘿蔔、芹菜等一株づ〻を三ピントの水にて羹之れに少許りの食鹽を加へ猶はまた牛酪及び炙りたる麵包の一切をその中に入て酌取るべし

○豌豆の羹汁　水にて一ピントの豌豆を羹ろの汁を汲み取らずしてそのま〻浸し置き麥粉及び牛乳牛酪等を加へて濃くなし食鹽、胡椒、芹菜等を入れて味を附け炙りたる麵包二斤或ハ三斤と細かくチギリてソップの十分間程も羹たるころ振りのくべし此豌豆ソップの如きハ子供が多く好む者にて些細なる野菜より製したるものが牛酪の代を爲ハ寔に調法と謂べし

○家賃の騰貴　近來府下一般に地所の騰貴したる原因にや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家賃迄も騰貴したる由にて目下の處にては從來三圓乃至五圓迄の分は一割半方又五圓乃至十二圓迄の處は一割方騰貴し居ると云ふ

○拾錢紙幣通用期限　來卅日迄にて十錢紙の通用を差止らるゝ筈なれば所持せる人は早く交換すべし尤も去十七日大藏省より來十二月卅一日迄引換方延期の旨達せられたり

◎御伽草

○大僧正俳優と問答す

大僧正サンシロフトと云へるは英王ゼームス二世の時の人なりしが曾てベツタルトンと云へる俳優に問ふて曰くベツタルトン君よ我〻僧侶ハ事實の說法を爲すも聽衆ハ虛妄の如く思ひ俳優方ハ虛妄の事を演ずるも見物ハ實事の如く思ふはそも如何なる譯のベツタルトン之に答て私共よハ善く分り兼ますが我〻俳優ハ虛妄の事を實事の如く演し和尙樣方ハ實事をバ虛妄の如くお話しになるゆゑでありませうと云り

○數學問題

帽子五個の價ハ靴三足に均し帽子一個ハ靴一足の價より五十錢廉價なりと云ふ各一個の代價如何（美濃笠松撫箏女史出題）

○考へものゝ題

左の詩ハ誰を詠せしや（美濃笠松撫箏女史出題）

執レ恩生死欲レ從レ君、健闘無レ前女將軍、不レ許婦人同レ併レ命、故山遺レ世剪ニ鳥雲一、

○六十一號數學問題答式

$\left.\begin{matrix}8\\4\frac{1}{3}\end{matrix}\right\}:\left.\begin{matrix}12\\5\end{matrix}\right\}::4\frac{2}{7}:x \quad x=7\frac{1}{7}2\div\frac{1}{7}=14$　答日十四時間

（答者）佐賀縣小城郡多久村多久まさ、信濃中村與太郎、新潟師岡具丹、東京新富町壹丁目二番地林二木

○六十一號考へものゝ答

詩ハ小督の局、（答者）長崎港濱町瀧子、長野縣松本鈴木やす、靑森笹尾みつ、宇都宮藤井三代子、東京築地林起宇、同神田美土代町坂田義民、名古屋武平町櫻井龜、大坂櫻井かう、同松井いと、同佐々木信太郎

歌ハ佛御前、（答者）長崎港濱町瀧子、長野縣松本鈴木やす、宇都宮藤井三代子、東京築地林起宇、佐賀縣小城郡多久村多久まき、靑森笹尾みつ、東京有樂町田中光、仙臺荒町臼井ふさ、同北材木町大河戸よし、千葉香取郡筒井はな

◎寄書

○獨語（前號の續き）

左れば賤の男賤の女も皆歌をよむ後世は風俗移り變り人の詞

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も古に及ばず故に今の人は必ず三代集より上つ方の歌を數千首そらんじたる上にて好き歌をもよみうべし扨てよみたる歌を必ず人に見すべしとにもあらず況して公家の人に見せて稱美を得て名譽を求むべきにもあらず我心にて幾度も玩味諷詠し古歌に引き競べて其似たると似ざるとの所を思量せば何ぞ可否の見え分らざる事あらんや斯の如くして歌數多くよまば其中二首三首古人に劣らぬ歌などなからざらん身の一生に勝れたる歌三首有て人々に稱美せられなば誠に足りぬべし喜撰法師が「我庵は」の歌にて名を千歳に遺したるを見るべし去りながら當時の人に知られん事を求めずよみたる程の歌を書記して知りたる人に一人二人よも遺し置きたらんに當時ハ取離す人なくとも百年の後に貫之躬恒なる人あらば必ず取上ぐべきなり凡そ人の德行も才藝も當時にハ知る人なくして身まかりて後に世上論定りて信ずる人も譽める人も有るものなり然るを己が一生のうちに人に知られんとするがゆゑに穢き心出りて大事を誤るも是其志の高からぬなり昔虞仲翔は天下三人我を知る人あればうらむに足らずと云ひ老子は我を知る者稀なれば我尊しと云へり此位に立バ譽を當時に求る心やみぬべし和歌の道のみに限らず万事是れに同し我詩の道を以て推て歌道を知れる事斯の如し詩ハ異國の詞なり歌ハ我國の詞なり詩に競ぶれハ甚だ安き事なり學び樣の惡きと志を立る事の高からぬにて古の賤山賤にも及ばぬハ最も口惜き事ならずや我友服部子遷ハ和歌の道を知て後に詩を學び詩の道を悟りて遂に上手の名を得たりされば今公家の人々に吾輩の云ふ詩を解聞かせて情をひらき吾輩の詩を學ぶ如くに歌を學び給はゞ必古人に及ぶべしさもあらば多くの人の中より傑出の人なきか出來ざらん今公家の人々歌道を古に返さん事を思ハずして五百年來定家卿の敎を守りて道の衰へ行く事を知らず至て歎しき事なり今の士庶人吾が此說を信受して詩を學ぶ道を以て和歌を學び一己の精力にて歌道を悟り上代の歌に似る計りの歌を詠み置きたらんに身退りて後に知る人ありて必ず取上ぐべし其時此歌は師範なく公家の人に學バず自力にて詠みたりとて卑め捨る事もあるまじきなり陽春白雪の曲は和する者鮮し知音の士にあらざれはバ之を賞する事なし今の人ハ只下里巴人の曲を謠ひて和する者多きを譽れとする故なり

我先師徂來先生曰異國と我國と風俗大いに異る中に唯詩と歌道との道ばかり詞の異なるのみよて其趣全く同じ人情同じき故なり又曰く和歌は人丸赤人の外在原業平を上手と云ふべし伊勢物語に載せたる歌絕妙なるもの多し「月やあらぬ」の歌を見るに何等の感慨ぞや「遂にゆく」の歌ハ古今辭世の絕妙なり惟高皇子を訪ひまいらせて「忘れてはゆめかとぞ思ふ」とよまれしは歌の勝れたるのみにあらず節義の心詞の外に顯はれしと謂ふべし

毛詩に蕭々馬鳴悠々旆旌と云ふは軍中の靜なる情を云へり馬の嘶を聞き旆の風にひらめく所を此兩句にて云ひつくせり楚詞に嫋々兮秋風洞庭波兮木葉下と云へるは秋風なよ〳〵と吹時洞庭湖に波をち湖邊の木葉はら〳〵と落るといへるのみにて外に珍らしき事もむつかしき事もなし然れども此兩句を明詠すれば洞庭の秋の氣色今も目前に現はる又王孫遊兮不歸春草生兮萋々と云へるは人を愛し戀む心限なき感慨なり（次號）

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

NEW NATIONAL FIRST READER.

LESSON XXIV.

I.

Ann likes her small kitty. Its fur is soft and white. it saw the cat catch the big rat.

II.

Ann likes Rover, too. She saw Rover run ! off with the hat. Here, Rover, here ! You are a bad dog ! Why did you run off with the hat ?

III.

Ho, ho ! Look at the boys and girls. See them go-down the hill, over the snow. Now they go-back, up the hill.

IV.

They are out at play. They will not get hart. How merry they are ! Ann, I will give you a ride on my sled. We will have a race with Rover and see how fast we can run.

英語獨修

ニユーナシヨナル、リーダー直譯

〔第廿四節〕(復習)第一 ㈠アンが(娘の名)㈡彼女の㈢小さなる㈣子猫を㈤愛す●㈠其れの㈡毛皮が㈢柔く㈣而して㈤白く㈥有る●㈠其れが㈡大なる㈢鼠を㈣捕へる㈤猫と㈥見し

●第二 ㈠アンが㈡又㈢ローバーを(犬の名)㈣愛す●㈠彼女が㈡帽子を㈢持て㈣彼處に㈤走る㈥ローバーを㈦見し●㈠爰に㈡ローバー(よ)㈢爰に●㈠汝は㈡惡しき㈢犬で㈣有る●㈠何故に㈡汝は㈢帽子を㈣持ちて㈤彼處に㈥去り㈦爲せし(や)

●第三 ㈠ホー㈡ホー●㈠子供等と㈡而して㈢娘等の㈣方と㈤眺め(よ)●㈠雪を㈡超て㈢小山を㈣下だる㈤彼等を㈥見(よ)●㈠今㈡彼等が㈢小山の㈣上に㈤還る(よ)

●第四 ㈠彼等が㈡害を㈢得㈣ぬて㈤有らう●㈠如何に㈡彼等が㈢樂しく㈣有る(よ)●㈠アン(よ)㈡私は㈢私の㈣橇に㈤於て㈥乘を㈦汝よ㈧與るで㈨有らう●㈠我々は㈡ローバーと㈢與に㈣競走を㈤持つで㈥有らう㈦而して㈧如何に㈨速かに㈩我々が(十一)走り(十二)能ふ(十三)かと(十四)見るで(十二)有らう

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

毎月一回發行一册定價十五錢十册前金一圓四十錢無郵税

NATIONAL EDUCATION

國民の教育

六月廿五日
第貳册發行

目次

畫	米國新克府職工學校ノ圖	
論	開化ノ七ッ道具	能勢榮君
	倫理論綱	曾了法君
	敎科書編纂ノ注意私見	石井よれ君
	國民の敎育の必要と論ず	淸水彦五郎君
	貧國兒童の敎育を僧侶に依賴するの説	庵地保君
	普通敎育論	河田鏻也君
學	風敎	土岐政孝君
	「ソクラティース」ノ行狀及敎育ノ手段	菅了法君
	敎育學	堤駒二君
	敎育者ノ種類	高橋熊太郎君
	支那古文新學	北村三郎君
雜	景色畫ノ區別	宮嶋鈴八君
	内外雜報	數十件

發行所東京日本橋區馬喰町二丁目一番地

興文社

法幷に料理法食事法の一切を詳細に説示せられしものにて目下誰人も一本を携ふ可き世上無双の肝要新書なり●但し近時世上に流布する杜撰無益書と同日の比にあらざれば同名類似の書多きに付き讀者御注意の上續々御注文を乞ふ〇目録●男女會食の圖●訪問の事●談話の事●席次の事●途上禮儀の事●握手禮儀の圖解●男子一般禮儀の事●男子身姿の事●食事の禮一般注意の事●食事一般の事●食事禮儀圖解●料理法獸肉の部十二種●同魚肉の部十九種●同鳥肉の部十種●同精進の部二十四種●食器具の圖解●製法秘傳七件●以下略す

出版發賣所大阪中之嶋五丁目常安橋北詰一丁西入

川井美津謹白

舍告

本誌代價前金相切れ候ときハ帶封を朱書に致して御送附申上候ニ付其節ハ早速御送金被下度候也

績文舍會計掛啓白

本誌代價表		此郵税
壹册	正價金四錢	壹錢
拾册	同金三拾八錢	同拾錢
二拾册	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾册	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾册	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵劵代用ハ壹錢切手にて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵と本舍へ御送附可被下候但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍

持主 松本義弘
編輯人 原口令成
印刷人 初鹿野銻五郎

大賣捌所
東京芝區愛岩町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 同 嵈々堂

●源綱紀先生序●内山龜太郎先生著譯

●西洋禮式作法 料理法食事法 大全

全一册西洋綴頗美本●繪圖入●紙數百〇六ページ●今回特別減價廿五錢●郵税八錢●切手代用ハ郵税共卅六錢必ず封送

のと

本書ハ内山先生の近譯にて通俗簡易の文章を以て歐米禮式作

遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY